

GlobalvoiceEnglish の TTS 音声を初めて聞いたときには、「驚きました！」

大東文化大学 外国語学部 英語学科
教授 静哲人 様



GlobalVoiceEnglish(GVE)は以前から授業で有効に活用させてもらっています。GVEを知るまでは合成音声に対して、英語教育で使えるものではないだろう、という先入観があったのですが、GVEのTTS音声を初めて聞いたときには驚きました。このTTSと同じレベルで発音ができる学生がどれだけいるだろうか、と感じさせられるほどの完成度で、少なくともほとんどの日本人英語学習者の発音モデルとして、あるいはリスニングテスト用の音声として十二分に使えると言ってよいと思います。とくに文アクセント（文の中での内容語・機能語の強弱リズム）や語と語をつなげて発音するリンキングは、音声学の原則通りに作られているので、「教科書的」な基本の読み方のモデルとしては、様々な要因で読み方が変わる生身の母語話者よりもむしろ適切な場合さえあるかもしれません。

TTS音声を生かす場面は、まず授業中でのモデル提示でしょう。教材全体の音声はCDに入っていたとしても、その中の特定のセンテンス、フレーズ、あるいは語だけ取り出している音声提示は、CDは苦手です。その点、GVEであれば、その場で任意のテキストを音声化することができるので、柔軟なモデル提示が可能です。また自分の学生に会うようにテキストを部分的に改編したり、テキストにはないQuestionをその場で作ったり、繰り返すためのポーズを入れたり、ライティングの教科書のように通常はCD音声が付属していない英文の音声モデルを聞かせたり、という作業も大変手軽です。

また、リスニングテスト作成にも威力を発揮します。我々非母語話者英語教師にとって、リスニングテストの作成は、その音声の準備の点でどうしても手軽さに欠けるため、実施の頻度も低くなる傾向がありました。GVEのようなTTSソフトが手元にあれば、いちいちネイティブ話者に録音を依頼する必要はなく、テストの作成も格段に楽になります。

さらにJapalishとEnglishの違いを学習者に実感させるためにも、GVEが役に立ちます。GVE（現行品GlobalvoiceEnglish3）には、ネイティブ話者のTTS音声として米語男声のPaul、米語女声のJulie、Kate、イギリス英語女声Bridget（オプション）そして日本語話者TTS 3種類が装備されています。この日本語TTSが英単語を「ベタな」カタカナ発音で読んでくれるので、この機能を利用します。たとえばまず、PaulなりJulieに、“very” “berry” “belly”と発音させ、vとb、rとlの音の違いを意識させてから日本語TTSに同じ3つの語を「ベリー」「ベリー」「ベリー」（当然、同一の音になります）と発音させると学生は必ず爆笑します。確かに、これはひどい、と。このようにして、実際に他人（日本語TTS）がカタカナ発音しているのを第三者として聞くとEnglishとの違いがよりはっきりわ

かるのでしょう。「世界の英語」(World Englishes)の時代と言われますが、どの変種の English であっても、実は少なくとも子音音素はそれぞれ、それなりに発音し分けています。コミュニケーションに支障をきたす Japalish を、国際英語の一変種として認められるに足る one of the world Englishes のレベルに高めてゆくために、GVE のような TTS ソフトウェアが多いに役立つのではないのでしょうか。

[2010.12.07]

大東文化大学

<http://www.daito.ac.jp/>

静哲人ホームページ

<https://sites.google.com/site/zukeshomepage/>